

Weekly Bulletin 2020-2021



RI会長
ホルガー・クナウク



ロータリーは
機会の扉を開く

静岡東ロータリークラブ

会長/相原雄治 幹事/長島秀親

事務局/静岡市委区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場/ホテルアソシア静岡 例会日/毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
相原雄治

第2985回例会 令和3年5月27日(木)

《司会》長島 秀親君

《合唱》「手に手つないで」、「静岡東ロータリー」

《ソングリーダー》杉田至弘君

《ゲスト》バイクレース 生形秀幸様 (ガタビギ)

《ビジター》なし

《新入会員》竹内竜也君 (大和証券静岡支店長)

《本日のお祝い》なし

《会長挨拶要旨》相原雄治会長

本日のテーマ 「ゲスト生形秀之さんの紹介」



生方さんは、1977年清水区生まれのレーシングライダーです。1977年静岡市清水区生まれ。高校3年生の時オートバイレースと出会い、1995年ミニバイクレースに初参戦。以来GP125、ST600、J-GP2と着実にステップアップ、2005年には地元活性化とスポーツ振興を目的として「エスパルス・ドリーム・レーシング」を立ち上げた。

オーナーとしてチーム運営を行いながら、選手として国内最高峰のロードレース選手権で活躍。活動の幅を広げるため株式会社エススポーツを設立したのは2016年。2019年シーズンをもって20年に渡り参戦を重ねた全日本選手権を卒業したが、年に一度行われるバイクの祭典「鈴鹿8時間耐久ロードレース」参戦等、現在もレース活動を続けている。ライダーとして培った経験とスキルを活かし、若手ライダーの育成や安全なライディングの指導、走行会の企画&開催を行う等、2輪文化の発展に努めながら他スポーツチームとも関係を深め、スポーツに価値をもたせる活動や、地域を盛り上げる活動にも精力的に取り組んでいる。

《ゲスト卓話》バイクレース 生形秀幸様

1977年生まれ、清水出身の44歳です。県立清水工業を卒業して父親の仕事である船舶修理を手伝いながらオートバイのレースに出ていました。小学生の時、バイク好きの父親の影響でオートバイに乗せられてレースに出たのがきっかけです。ただ、レースは好きではなかったため、6年生の時に一度レースから離れました。中高はスラムダンクの影響でバスケットは良いな、ということになりNABを目指そうと思って



はいましたが、そんな夢が叶うはずもなく、高校3年で終わってしまいました。これからどうすんだ、ということになったんですが、たまたまバイクの世界選手権、トップレーサーが集まるGP500に阿部典史、通称ノリックが出ていました。途中までトップ争いをして世界にインパクトを与えました。年齢も私と同じくらいでした。当時、サッカーでも野球でも日本人が世界で活躍することなんて出来ないと子供ごころに思っていたから、日本人でもここまでやれるんだと凄い衝撃を受けました。僕も子供の頃からバイクに乗ってましたから、新たな目標を見つけた思いでレースに参戦することになりました。とは言え、最初は50CCのミニバイクのレースです。そこから着実にステップアップしてロードレースに、鈴鹿や富士スピードウェイといった大きなコースでのレースにも出るようになりました。そして1999年の全日本ロードレース選手権、これは国内最高峰のカテゴリーですが、そこにたどり着きました。この当時は、ロードレースにプロというカテゴリーがなく、お金をもらって走っている選手もいましたが、僕は全て自己資金で賄ってました。その点では非常に苦勞を重ねて来ました。幼稚園、小学生の頃から英才教育を受けてステップを登っていったエリートライダーと

は違い、僕は一旦、バイクから離れて高校3年に再びはじめた訳ですから、ほとんど辛い思いと大変な苦勞しかなかったのですが、ひたすらしつこく、諦めずにやって来ました。

小学校6年生で一度、楽な方に逃げてしまったので、これからは逃げずにやって行こうと頑張ってきたタイプの人間です。

全日本ロードレースをずっと続けて来ました。2010年から17年までJGP2、600CCクラスのレースに参戦しました。これまでの表彰台獲得回数はおよそ30回、表彰台の常連として戦い、通算4勝しました。全日本ランキングは2012年から15年までの4年間連続で2位でした。こういう世界で2位ではダメなんですね。

この時、何としてもチャンピオンになりたいという思いと、雇われライダーとして8年参戦していた鈴鹿8耐に自らのチームで挑戦したいという思いがぶつかり悩みましたが、僕は鈴鹿8耐を選択しました。どちらが多くの人を巻き込めるか、どちらが多くの人を感動させられるか、それを考えた結果の判断でした。掲げた目標は3年で表彰台に乗る、です。

これを目標にプロジェクトを立ち上げました。まずは資金集め、そしてタイヤ交換や燃料補給などのメカニックやスタッフ、8耐は一人では走れないので優秀なライダーも集めなければなりません。さらに3年で表彰台に乗るためのオートバイ、タイヤ、機材・・・これを全部集めなければなりません。

鈴鹿8耐は歴史は古く、これまでに42回開催されています。4日間開催で観客は10万人、11時半スタートでチェッカーは19時半です。ライダーは3名まで登録可能。1時間乗ると体重は2キロ減りますから一人では無理です。参加バイクは60台から70台。ホンダ、ヤマハ、カワサキなどのメーカーのほか、プライベートチーム、海外のチームも参戦する世界が注目するレースです。

ここでエスパルス・ドリーム・レーシングについて紹介します。モータースポーツはなかなか地域色が出ないのですが、2003年からお付き合いのある株式会社エスパルスさんに地元の人に応援してもらうためにタイアップをお願いしています。メーカーはスズキと契約してスズキファクトリーマシンを提供してもらっています。1台、1千万から1千500万、



最高速度は315キロ、速いです。そしていよいよ鈴鹿8耐参戦です。2017年予選11位、決勝23位。2018年は予選6位、決勝4位、1位はヤマハ、2位はホンダ、3位はカワサキ、そして4位がエスパルス・ドリーム・レーシング！メーカーに次ぐ順位で国内外で評価しても

らいました。2019年予選9位、決勝8位。僕は予選で転倒して病院のICU送りとなりました。脳震盪、肺挫傷、肺気胸、肋骨・鎖骨骨折、死にかけました。こうして3年間の挑戦が終わり引退を考えました。

そんな時にエスパルスの社長だった左伴さんから、「俺が営業するよ。まだやれる」と言われ、「*ANYWAY RIDE*」というキャッチフレーズをもらい現役続行となりました。

いま、株式会社エススポーツを運営しています。ミッションは「スポーツを通して得られる素晴らしい経験と感動をたくさんの方と共有する」です。今後の目標は世界で戦えるライダーの育成、いま教えている子は斉藤タイヨウ、中学1年生です。名前を覚えておいて下さい。海外の耐久レースにもチャレンジしたいです。鈴鹿8耐の表彰台に乗るは成し得ていないので、これにはこだわって行きたいです。そしてスポーツによる地域貢献、スポーツの価値を多くの方に伝えて地域のスポーツ文化の発展に貢献したいと思っています。

ぜひ、ご支援、ご協力をお願いします！！

(相原会長より：資金集めに大変苦勞しています。自社の名前をライダーズーツに入れたいと思われたら、特に清水の企業さん、ご支援のほどよろしくをお願いします)

《スマイル報告》

戸塚敦雄君

全国新酒鑑評会で静岡平喜酒造の「喜平静岡蔵」と浜松酒造の「出世城」が揃って金賞を頂きました。感謝してスマイルします。

杉田至弘君

大和証券静岡支店長、竹内竜也さんの入会を心から歓迎すると共に、生涯2度目の指揮棒を振る機会を頂いた事に感謝してスマイルします。

川口尚宜君

結婚記念日のお花をありがとうございます。

結婚17年目になりました。自分の人生は妻のためにあると思うと何があっても楽になってきました。この調子で頑張ります！

長田きみの君

スマイル今年度、残り1か月！！

ご協力、よろしくお願いします。また、本日、新たなスポンサーが、アセットコンサルティングさんのようなビッグスポンサーが生形さんに見つかるようにお祈りしてスマイルします。

(会報作成 榛葉 英二)